令和６年度　第２回北区総合教育会議　議事録

日時：令和６年 11 月 11 日　15 時 00 分～16 時 13 分
場所：滝野川分庁舎２階　　教育委員会室

◇次　第

１　開会

（１）区長あいさつ

２　会議事項

（１）北区教育・子ども大綱案について

３　意見交換

４　その他

５　閉　会

◆構成員（出席者）

やまだ加奈子区長　　清正浩靖教育長
本間正江教育委員　　名島啓太教育委員
長谷川みどり教育委員　長谷川勝久教育委員　　宮川淳子教育委員

◆事務局

藤野政策経営部長　　筒井子ども未来部長　　倉林教育振興部長
栗生企画課長　　古平子ども未来課長　　松村教育政策課長

１．開　会

（藤野政策経営部長）

それでは定刻となりましたので、ただ今から令和６年度第２回北区総合教育会議を開会いたします。本日司会を務めます政策経営部長の藤野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めにやまだ区長よりご挨拶申し上げます。

（やまだ区長）

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。日頃から教育委員のみなさまには、子どもたちの教育環境整備に向けて様々なお力をいただいておりますこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。いつもありがとうございます。

本日の総合教育会議におきましては、今年度改定する北区教育・子ども大綱（案）についてみなさまと議論を深めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

また、教育施策、子ども施策全般にわたっても、みなさまと幅広く意見交換ができればと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

※事務局より配付資料の確認

２．会議事項

（藤野政策経営部長）

それでは会議事項に入らせていただきます。

議題の（１）北区教育・子ども大綱案について、を栗生企画課長よりご説明申し上げます。

（栗生企画課長）

では、スクリーンに投影している資料にてご説明いたします。

本日、「中学生モニター会議について」、「アンケートによる意見聴取について」、「北区教育・子ども大綱案について」、「スケジュールについて」の４つの項目について説明してまいります。

まず１点目。中学生モニター会議について活動内容等についてご報告いたし

ます。今回、大綱案の作成にあたっては、中学生モニター会議とそれを踏まえたアンケートを実施して、子どもから大人まで意見をいただきました。その内容について、新しい大綱に反映しております。

意見反映のポイントは３点ございます。１点目が共通理念についてです。２点目はキャッチフレーズ。こちらはこれまでの大綱にはございませんでしたが、今回、共通理念を短いフレーズで表現することで、印象に残りやすいものとしていきたいと考えております。３点目がデザインについてです。子どもにも興味を持ってもらえるような親しみやすいデザインを目指して、今回、案を作成したところです。

次に、中学生モニター会議の概要について簡単にご説明いたします。子どもの意見聴取としてこの会議を活用し、新たな大綱のキャッチフレーズやデザイン案について意見を募りました。当日は中学生１５人にご参加いただいて、活発に意見を交わしていただきました。

また、キャッチフレーズを考えてもらうにあたっては、事前ワークを行いました。内容としては、大きく２点。１点目は「自分らしく幸せに生きていくためにどんなことや力を身につけたいか」。また、２点目として「子どもの幸せ No.1 のまちってどんなまちか」について意見を出し合ってもらいました。スライドにある吹き出しの内容が、中学生モニターから出た意見の一部となっています。

例えば、①では「自立していく力」や「協調性」、「ポジティブ思考」、「挑戦できる力」などが意見として出ました。②では「学ぶ場、遊ぶ場が整っている」や「自分の意見を反映できる」などの意見が出されました。

次のスライドは、中学生モニターに考えていただいた提案内容です。３グループに分かれて作業してもらいました。

キャッチフレーズについて、各グループより１案ずつ提案してもらいました。まず「未来を創る　夢を叶える　子どもの幸せ No.1」。続いて「前途洋々～**き**ぼうに溢れ　**た**くさんの人を支え　**く**民の声をよく聞く～」。最後に「子どもと学ぶ、子どもと拓く、子どもとつくる社会」。こういった案が中学生モニターより出されたところです。

次にデザインについて。スライドの下部に案が出ております。イラストを使ったほうがよい、カラフルにしたほうがよい、言葉はできるだけ短くてわかりやすいものがよい、というような意見が中学生モニターから出てまいりました。

続きまして、アンケートによる意見聴取について簡単にご報告いたします。

今回、中学生モニター会議で出た意見をもとに、子どもから大人まで幅広くアンケートを実施したところです。アンケートでは、大綱の理念やキャッチフレーズの案について意見を聞いております。また、あわせて子ども向けのアンケートでは「やさしい日本語」で表現したアンケートを実施しました。

次のスライドはアンケートの回答者数とその年齢層の内訳を示しています。総回答数は３３０件でした。スライドの右側にある円グラフをご覧いただきますと、小学生が半分程度、中学生が約４分の１程度、全体ではアンケートの４分の３が小中学生からの意見というようになっております。

アンケートでは全４問を用意して実施しました。理念に関する設問は複数の選択肢の中から３つ選ぶ方式のものです。また、キャッチフレーズに関する設問は、中学生モニターの提案内容について「良いと思うところ」や「好きなところ」など自由記述で意見を募るものです。

続いて、アンケートの結果について簡単ではございますがご報告します。

スライドの棒グラフですが、赤い破線で囲まれた部分が上位３つの選択肢です。このような内容を踏まえ、大綱の理念に反映いたしました。

次にキャッチフレーズ案についてですが、主な意見として「あいうえお作文がわかりやすい」とか「『子どもと』というフレーズが子どもを尊重しているようでよい」という意見、また「『未来』や『夢』、『希望』という明るい言葉を使ってほしい」などの意見が寄せられました。

次のスライドでは、先にご説明した中学生モニター会議や本アンケートの結果を踏まえて作成した大綱案についてご説明いたします。

キャッチフレーズの案につきましては、スライドでお示しの「子どもとともに創る北区のみらい　～　**み**んな笑顔　**ら**しさ輝き　**い**きる力が育つまち　～」を新たな大綱のキャッチフレーズにしてまいりたいと考えております。作成のポイントとしてスライドにお示ししておりますが、「あいうえお作文」の方式を採用しました。また、「未来を創る」という表現や「笑顔」「輝く」といったキーワード、そして「子どもとともに」といったフレーズを使うなど、寄せられた意見を踏まえて作成をしたところです。

続きまして、理念の案についてです。理念につきましてはスライドでお示しの２つを考えております。こちらはアンケートの結果をもとに、また、北区基本構

想や関連計画の趣旨なども踏まえて作成いたしました。理念につきましても、子どもが当事者であるという考え方から「子どもとともに」というフレーズや「未来」や「夢」といったキーワードを取り入れて作成したところです。

１つ目の理念は「子どもとともに　学びあい　支えあい　認めあう　夢と希望にあふれる北区を実現」というものです。こちらは、アンケートでの「子どもの幸せなまち」はどのようなまちかという設問に対して寄せられた意見をもとに構成いたしました。

次に２つ目の理念ですが「思いやりの心を持ち　自分らしさを認め　自ら未来を切り拓く　子どもの育ちを応援」というもので、こちらについても、アンケートの設問である「自分らしく、幸せに生きていくために必要な力」に関する回答結果を踏まえて作成したところです。

次のスライドにて、デザイン案について簡単にご説明いたします。

現大綱は、白黒で、文字を主体に構成されたものですが、新たな大綱ではカラフルなものとし、イラストを活用しております。こちらは、中学生モニターの意見を踏まえてデザインを検討したものとなっております。

続いて、大綱における各分野の内容についてご説明いたします。

まず、教育分野における基本的な考え方と基本方針ですが、こちらは教育ビジョン２０２４の趣旨を踏まえてまとめております。教育分野の基本方針は、現在の北区教育・子ども大綱の基本方針と同様、「まなび、ささえ、つなぐ」を３つの柱という形で位置付けております。

また、子ども分野における基本的な考え方と基本方針についてですが、こちらにつきましても「北区子どもの権利と幸せに関する条例」や「北区子ども・子育て支援総合計画２０２４」の趣旨を踏まえてまとめたものとなっております。基本方針の４つの考え方は「北区子ども・子育て支援総合計画２０２４」を踏まえた枠組みとしております。

最後に、今後のスケジュール等についてご説明いたします。

本日の第２回総合教育会議を踏まえまして、１２月にパブリックコメントを実施予定です。その後、パブリックコメントの結果を来年２月にご報告させていただき、３月に大綱を策定したいと考えております。

現在、パブリックコメントの実施にあたってＰＲ用の動画を作成しております。作成途中のものではございますが、この機会に少しご紹介させていただけれ

ばと思います。資料配布はしておりませんので、スクリーンをご覧ください。

※パブリックコメント実施に関するＰＲ動画を流す

お流しした動画はまだ作成中のものですので、内容も含めてご意見いただければと思います。

以上、雑駁ではございますが、私からの説明は以上です。

３．質疑応答

（藤野政策経営部長）

ただいまご説明させていただきました「北区教育・子ども大綱案」について、みなさまからご意見ご質問ございましたらお願いいたします。

（本間教育委員）

ご説明いただきありがとうございました。

私どもも中学生モニター会議の発表に一部参加させていただいて、中学生から出た本当に素晴らしいアイデアやアンケートで集まった意見など、子どもたちの気持ちを上手に汲んだまとめをしていただき、反映させてくださっていることはありがたく思っております。今の話とは別に、大綱のまとめ方のことで意見がございます。

素案の段階で、私ども教育委員に意見を尋ねてくださり、それを取り入れてくださってありがたいと思っております。その意見の中に、表紙のイラストに関する意見があったと思います。多様性を考慮したイラストを採用してくださり大変ありがたいです。一方、裏表紙の７人のお子さんのイラストについて、このお子さんたちの肌の色がみな均一となっております。もし表紙のイラストを受けるのであれば、裏表紙のイラストについても、多様な人々がともに生きるという視点から工夫していただけるとありがたいと思いました。

また「まなび、ささえ、つなぐ」について、これまでのことを継承してさらに発展的にとらえている点についても、大変ありがたいと思っております。この「まなび、ささえ、つなぐ」についても、せっかく子どもたちの意見を吸い上げて作っているものの中に入っているので、保護者の方々や地域の方々などや、直接教育に関わっていない方々も含めて、さらに浸透を図っていくことが大事で

はないのかなと思っております。

内容のことではなくその手立ての話で恐縮なのですが、例えば、校長会等の連携として、学校経営方針の中で必ずこの図示を入れる。当然ながら、学校経営方針は区の方針を受けて立てますから、この図解を入れていくとか、あるいは毎月発行する学校だよりの一部分に「まなび、ささえ、つなぐ」の図を簡略化したものだけでもいいので、それを入れる。まるで合言葉のように子どもたちに意識づけをするとか、そういったことを浸透させる。せっかく意見を出してくださった中学生が、自分たちの意見がきちんと反映されているということを、継続的に感じられるように、そして、中学生が成長して大人になった後も、区民の一員として自分たちも生きていくのだという気持ちが醸成できるようにつなげることがとても大事だと思いました。

（栗生企画課長）

ご意見いただいた裏表紙のイラストですが、少し調整したいと思います。

また、「まなび、ささえ、つなぐ」につきましても、教育委員会と連携して周知していきたいと思います。

（倉林教育振興部長）

先ほどご提言いただきました「まなび、ささえ、つなぐ」について、教育ビジョン等でもお示ししているところで、基本的には教育現場では認識されているところです。ただ、子どもたちや保護者の方、地域の方にこれが周知できるよう、どういうことができるのか。発行物にワンポイントとして入れていくのかなど、教育指導課と調整しながら工夫させていただきたいと思います。

（名島教育委員）

本間教育委員も述べておりましたが、中学生が意見を出して、アイデアを出し合っているところを拝見していましたので、意見が非常に効果的に取り入れられていて素晴らしいものになっているなと思いました。

美しい絵を描くためには、美しい絵を思い描くことができなければ描けないといいます。そういう意味では、大綱案は非常に美しい世の中、すばらしい社会のあり方を示していると思います。

例えば、子育てしている人や子どものような直接この言葉が結びつく人以外

の大人が読んでも希望を持てる内容と申しますか、大人も生きていく上で、とことんまちで生きるということが力になるような内容を含んでいると思います。

大綱というものが、ここにも書いてあるとおり「実現するための目標」ということですので、これは教育機関とか教育に関係する人でなくとも、区民全員がこれを目にして、そういうまちに住んでいるのかとか、こういう理想を持ったまちにいるということが、広く知られていくことが肝心なのではないかと思いました。

一部の人にとどまらない、区民全員が共有するものになって初めて、北区が目指すまちのあり方になっていくと思いますので、広く周知されていく方策を考えていただければと思いました。

（栗生企画課長）

いただいた意見を踏まえまして、教育や子育てに関わる人たちはもとより、広く区民に周知ができるような、効果的な方法を検討してまいりたいと思います。

（長谷川（み）教育委員）

私も中学生モニター会議に少し参加させていただきましたが、中学生の意見がとても素晴らしくて、将来この子たちが大人になって北区を背負っていってくれたら、北区がより良くなっていくのではないかなと思う会議だったので、とても感心いたしました。

少々気になるところを質問してもよろしいでしょうか。

北区教育・子ども大綱案の「わかりやすい版」にある「子ども分野」というページなのですが、このイラストは子育てをしているところを表しているのでしょうか。見ると、お父さんしかいないように見えます。赤ちゃんを抱っこしている人がお母さんなのかお父さんなのか判別がつかないのですが、お父さんだけが参加しているような印象が見受けられるかなと思いました。

あと、もう１つですが、次のページの「基本方針」の中で、「地域全体で子育てをします」というところで、こちらも、お父さん同士が手をつないでいるようなイラストですが、地域全体ということであれば、今は地域を支えてくださっている方の中にはお年を召した方もいらっしゃるので、そういった地域の方のイラストが載っていてもいいのではないかと感じました。

その２点について、いかがでしょうか。

（栗生企画課長）

確かに「子ども分野」のページについては、男性のイラストばかりのように見受けられます。子育ては女性も男性も関係ないというご指摘だと思いますので、掲載するイラストは再度検討させていただきます。

また、「基本方針」のイラストですが、地域のどのような方をイラスト化するかということもありますが、いただいた意見を踏まえてこちらも検討させていただければと思います。

（宮川教育委員）

中学生モニターの方々は大変素晴らしい意見を出すだけでなく、自分たちの未来や将来も含めて、いろいろなことを語ってくださいました。それをこの大綱にイラスト等で落とし込んでいただいており、「北区のみらい」という表現も本当にすばらしいなと思いました。

先の意見と重複いたしますが、同じデザイナーの方が全体のイラストを描いているかと思いますが、今回、ぱっと見たときに、「通常版」でも「わかりやすい版」でもそうなのですが、小さな子どもを表現する際、昔なら必ず頬を赤やオレンジ色にして表現していたかと思います。それはそれでいいと思うのですが、個人的には少々気になります。

全国の都道府県や市区町村、国などの冊子物を見ていましたら、子どもだからといって頬を赤やオレンジ色にしているところはほとんどありませんでした。そういうものがなくとも今はそのデザイナーの描き方１つで、いくらでも表現できるのではないかと思います。わかりやすい版では特に目立ち過ぎていて、内容より先にそれが目に入る印象です。目に入るのはいいのですが、その小さな子どものイラストだけがぱっと目に入ってきました。

あと、先ほどの意見でもございましたが、地域というのはお父さんだけではなくて、お年寄りもいらっしゃいます。地域みんなで子どもを育てるというところから始まっておりますので、「まちぐるみで取り組みます」というところのイラストについては工夫が必要なのかなと思いました。

こちらのイラストなどに関して、１５名の中学生モニターが見て、この感じが

いいとか、何かしらの反応があったのかどうかだけ教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

（栗生企画課長）

大綱案について、中学生モニターに対しては、これからきたコンを利用して周知したいと考えております。そこで、中学生モニター会議に参加した生徒やアンケートに回答いただいた児童生徒に自分たちの意見がどういうふうに反映されたのか見ていただければと考えております。

なお、イラストについては、既存のイラストを使っている関係で、どこまで対応できるか検討させていただければと存じます。

（本間教育委員）

お聞きしたいことが２点ほどあります。よろしいでしょうか。

１つ目は「わかりやすい版」の「北区が目指すまちのあり方」にある「子どもの成長を北区でサポートします」という記載がございます。この「で」という接続詞の部分について、読んでいて少し違和感がございました。個人的な感覚ですので、そうではないということであれば取り下げいたしますが、一般的には格助詞の「が」を用いるのかなと思います。何かしら特別な理由がもしおありなら教えていただきたいです。

２つ目は、先ほど別の教育委員より、全体に目指す姿として大変素晴らしい理想的なものというお話しがございました。そういった明るいものを提示するということは、私としても大賛成ですし、とても素晴らしいことだと思っています。

一方で、まさに「子どもたちのために」ということが含まれておりますが、「未来」や「夢」、「希望を抱きながら」とか、あるいは「生まれ育った環境に関わらず」といったフレーズがあって、その通りだと思いはします。ただ、例えば今現在、北区でも若干名ヤングケアラーのお子さんがいらっしゃいます。そういうお子さんたちがこれを目にしたときどういう気持ちになるだろうかと思うと、ちょっと複雑なものがあるのではないかと思いました。

そこで、この大綱は当然北区のホームページでも配信していくと思いますので、そのときにはぜひ、そういう状況にあるお子さんがこれを目にした際、自分が今の生活を改善していくためにどこに相談すればいいのかすぐにわかるよう

にしてほしいです。例えば、大綱のすぐ下のあたりをクリックすると、相談窓口などにつながるようなシステムづくりをする。もやもやとした思いなどを抱えずに、すぐに相談できるところを見つけられる、もしくは、相談してみようかなという気持ちにさせる。そういうような手だてをセットで示していくことが、広い意味で、多様なお子さんたちに応えていくことになるのかなと思いますので、ぜひそのあたりも含めてご検討のほどよろしくお願いしたいと思います。

（栗生企画課長）

まず格助詞については、ご指摘いただいたとおり「北区が」に修正いたします。

また、クリックすると相談先につながるような仕組みにつきましては、まず大綱を公開したのちに、次の段階として検討しようと思います。技術的には可能だと存じますので、検討させていただければ幸いです。

（長谷川（勝）教育委員）

この大綱については、全く異存ございません。ただ、委員が出されたような改善点というのはもちろん必要かとは思います。

先ほど委員からも意見があったように、大綱として公開されて、抽象的な概念で出ていくわけですが、これをどう具体化するのかということをうまく取り扱わないとただのお題目だけで終わってしまうような感じがします。そのあたりの仕組みというのを、今後、大綱が出来上がった後の段階に考えていかなくてはいけないかなと思いました。

例えば、教育分野の基本方針に「地域を支え社会に貢献する人づくり」というものがありますが、やはり頼られる仕組みというものを作ると伸びると思います。民間企業でも「頼る・頼られる」という仕組みがあるような企業は結構伸びると思います。研修を受けることで伸びるのではなく、その人が頼られて教える立場になると初めて伸びるということがあるものです。地域の方々に、コーチ的な役割をしていただくと、地域の方々も区に貢献できていると思えると考えています。教えた方も学んだ方も、双方にとってとてもいい仕組みになると思いますので、この対応について全く私は異存ございません。

とてもいいものを作っていただいたということで、先ほどから何も発言しなかったのですが、今後のこととして、具体的にどう展開していくのかというとこ

ろも含め、また、先ほど本間委員からご意見があったことも含めて、ぜひご検討いただくとよいのではないかと思っております。

（栗生企画課長）

大綱に基づく施策の展開につきましては、本来流れとして、大綱を策定した後に教育ビジョンや関連計画を作って具体化を図っていくというものだと思います。ただ、今回はそのところが少々前後しておりますので、策定した大綱を踏まえて、今後展開していく施策には大綱の理念等に十分配慮して展開していければと考えております。

（倉林教育振興部長）

先ほどの教育委員会の中でも話にあがりましたけれども、教育分野における地域との連携ですとか、家庭教育力の向上ですとか、そういったものに関する具体的な方策を教育ビジョン２０２４の中でも記載させていただいております。

例えば、コミュニティスクールを展開していくとかコミュニティスクールを通じて地域の方々が学校経営の中にお入りいただく。こうしたものがあると思いますし、子ども分野の中でも、例えば先ほど話にもございました「わくわく☆ひろば」に地域の方が来られて子どもたちに色々なことを教える、こうしたことも一つの取組みだと思います。いずれにいたしましても、北区教育委員会としてはそのあたりも力を入れている部分でございます。今後、ビジョンに基づいて事業展開をしてまいりますが、毎年度の予算編成の中でそうしたものを色々と取り組んでまいりたいと、そのように考えております。

（藤野政策経営部長）

ただいまデザインやイラストに関する意見や表現に関する指摘がございました。その他、公開・公表していく際の工夫、そういったところについてもご意見をいただいたと受けとめております。

来年２月に開催を予定しております第３回総合教育会議では、１２月から実施するパブリックコメントの結果や、議会からの意見などをお示しして、同様にご議論いただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

４．意見交換

（藤野政策経営部長）

それでは次第の「３　意見交換」に入らせていただきます。委員のみなさまから率直にご意見等ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

（長谷川（勝）教育委員）

意見といいますか、夢みたいなことでもよろしいでしょうか。率直な意見交換ということですので、２点ほどアイデアを述べさせていただきます。

先ほどの教育委員会での話になるかもしれませんが、基礎学力の評価が確かＢだったというふうに記憶しています。巡回指導員の方などが非常に努力されているということが書いてありました。その取組みはとてもいいのですが、できる・できないは別としてアイデアを１つよろしいでしょうか。

例えば、ＡＩを活用して、バンクシステムのようなものが開発できないかということを思っております。個人的なことで申し訳ないのですが、ＩＮＩＡＤ（イニアド）という東洋大学の情報連携学部というところがあるのですが、来年度その学部と共同で研究できないかという話があります。

そのときに、私の頭の中での話ですが、ＩＮＩＡＤが北区にございますので、何か北区の教育で貢献できないかと考えています。

その中で、「思考・判断・表現」というのは少々難しいのですが、「基礎学力」というものであるならば小学１年生から中学３年生までの学力がどういう構造になっているかわかる。それぞれの教科の先生方にご協力いただければ、何がどういうふうにつながっていくという構造図ができます。実は２０年くらい前になりますが、私たちは研究で、その時の指導要領に沿って小学１年生から高校３年生までの数学に限ったものを作りました。

例えば、データベース上で問題を難易度に分けてストックしていきます。その難易度も「知識レベル」なのか、「理解レベル」なのか、「応用レベル」なのかというような分け方をする。例えば数学でしたら「式と計算」。その領域でも「知識レベル」はできるけど「理解レベル」はできないとか、「理解レベル」までは達しているけれども「応用レベル」までは達していないとか。それを間違えたら、どこに戻ればいいか。そのようなことが全部把握できるようになる。その識別をＡＩでできないかということを今考えているところです。

特に今、生成ＡＩの技術が非常に発達してきまして、昔は学習させる必要があったのですが、ＩＮＩＡＤの学部長と協議しますと今はそこまで学習しなくてもよくなった。生成ＡＩをうまく利用すればかなりいけると、専門家も言っておりましたので、そのようなことができれば指導員の先生の人数が足りなくとも、きたコンを使って、各家庭で自分に適した学力レベルで学習できるシステムを活用することができるのではないかなというのがまず１点です。

もう一つ、実は昔、名古屋市立の教員として勤めておりまして、そこを辞めるときにちょっとした提案をしていたことがあります。名古屋市には教育センターというものがございまして、北区でも今、指導主事の先生方がお見えになりますね。みんな専門を辞めて、というよりも、専門を捨てて管理職になる。どういうことかというと、数学教育を専門でやってきたのに、副校長・校長になるときの専門は学校経営学となります。

ですから、例えばその専門領域、センターのような位置づけにしてしまって、指導主事の先生方を学者のような感じにしてしまう。要するに、数学教育研究室とか国語教育研究室。その室の指導主事、統括指導主事のような感じで、例えば、大学でいうと講師だとか准教授相当、統括指導主事になると教授相当のような感じで、他の研究機関と比較しても遜色ないようなかたちで、研究機関としても位置付けていく。そのためには学会論文などを外にどんどん出していきながら、数学教育の専門の先生は、小中学校の算数・数学教育の指導もできる。あと、生徒指導だとか、将来管理職になる方は、数学教育や国語教育などとは違う力量が必要になる。アメリカなどはみんなそういうふうになっていて、３０代後半ぐらいで私の仲間も校長などをしているわけですね。それは教科教育の専門家ではなくて、学校経営のようなもので学位をとっている。

ですから、何かそういうような仕組みをいち早く、北区で作っていき発信していく。北区の教育というのは、研究レベル程度のものだよということを東京都に示していく。そして、指導的な役割を指導主事の先生たちができる。さらに言うと、そういうふうになれば大学との互換が簡単にできる。今だと、資格審査も結構難しいのですが、研究所のような資格で指導主事の先生たちを見る。すると、例えば土曜日の勤務時間外の時に、学芸大だとか、旧東京教育大みたいな教員養成機関のところ、あるいは教職大学院のようなところで、実際に現場経験があり、指導主事のような人たちが大学でも教壇に立てる。

そういう仕組みを作っていくと、区全体のレベルが一気に上がるし、学問だけではなく、それ以外のことも学べる仕組みができます。そういうところに在籍する指導主事や統括指導主事の先生方が教材開発だとか学力の構造分析などをしてデータベースに反映させていくような仕事を含め、やれるようなことができれば国立教育政策研究所とまでは言いませんが、そのような仕組みができあがるのではないかと。そうするととてもいいのではないかと、名古屋市を退職するときのセンター長、当時私が勤めていた学校の教頭先生だった方にお話しをしたら、現実的には難しいと言われてしまいおしまいとなってしまいました。

できる・できないはわからないですが、何かそのようなことができるととてもいいのではないかという、少々夢のようなことを、意見交換の場をお借りして自由にアイデアをご発言させていただきました。

（松村教育政策課長）

ただいま、長谷川委員から未来志向の先進的な取組みをご提案いただいたところでございます。

大学の連携という部分でも、かなり価値のある取組みだというふうに捉えております。一方で、委員もご紹介いただいたとおり課題もあるのだろうというように捉えておりますので、まず教育指導課も含めてお話をいただく機会を設定させていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（やまだ区長）

１つ目のＩＮＩＡＤとは、これまでも北区教育委員会にとどまらず区長部局とも連携しておりまして、実は１２月に坂村教授と地域連携を含めて登壇させていただく予定になっております。

教育とはまた別のところで、ＩＮＩＡＤの研究に通じた地域活性化ということをテーマに意見交換をさせていただくので、こういったことが教育分野までどのように反映できるかということは教育委員会とも相談しながら深めていけたらと思っております。

基礎学力が全国平均を上回っているということが、これまでの教育委員会、教育委員の先生方の実績や成果だと受け止めさせていただいております。これをさらに分析を深めて、どこから戻ってどこを学習していくかというこのやり方

はパッケージで色々と出てきているのかもしれないなと思いました。まさに、東洋大学のみなさまとの連携の中でどんな研究ができるかということはお話を伺いながら相談をしたいと思っております。

（倉林教育振興部長）

ご提案のほどありがとうございました。データを活用するやり方というのは当然行っていく必要があると考えておりますが、データの集め方が課題だと思っております。先生も話の端々でできるだけ手間のかからないようにというお話もあったかと思いますので、学力の定着度調査もやらせていただいて、基本的にどのタイミングで躓いたのか、とか、それがわかるようなかたちを北区でやらせていただいております。そういったものを、例えばデータとして取り込んでいったときに「見える化」が図れる。こういった話かと思うのですが、このあたりは先ほど教育政策課長の話にもあったとおり、教育指導課と連携をしながらやりとりができればと考えております。

もう一つの夢のような話については、できるといいなというふうにやはり思います。先生たちも、指導の仕方とかより深く踏み込んでやりたいと思っていらっしゃる先生も当然いると思います。ただ、やはり先生もご承知のとおり、指導主事に関してはどうしても人事の話がありますし、実情として、統括指導主事含め指導主事は実質的にどうしてもトラブル対応になっているのが現状です。例えばいじめへの対応や学校と保護者との間に入るような仕事なども増えている中で、本旨に戻ってその教育を掘り下げていくということをやっていくというのは、確かに北区としてのエッジが効いていて、それを売りにするというのが一つ良い話かなと思います。ただ、体制を組むだとかほかとのプライオリティをどういうふうに考えていくのかということは、また先生ともよくお話をさせていただきたいと思います。

（長谷川（勝）教育委員）

データをＩＣＴで処理をするというのはとても必要なことなのですが、例えば「全国学力・学習状況調査」というのがあります。これはＳ－Ｐ（エス・ピー）表というものを各都道府県別に作成しているのですが、これを見ると誤答の質がわかるようになっています。要するに、しっかりと指導しなければ改まらない

ことなのか、あるいはうっかりミスのような少し指導すればすぐに改まるような内容なのか、このＳ－Ｐ表というもので解析できます。同時にＳ－Ｐ表を見れば、図表でもって平均点や、あるいはその問題そのものの信頼性のようなものも簡単にわかる。Ｐ曲線というのを見ますと、その形から、例えば一般的に５０点といわれても±１０点くらいの誤差があります。そうすると、５０点といっても４０点と６０点の間は誤差という解釈がきっちりできるような仕組みになっております。

ただ、文部科学省はＳ－Ｐ表を勘違いされていて、実は間違ったＳ－Ｐ表になっています。文部科学省が出しているＳ－Ｐ表より、足立区が出しているＳ－Ｐ表の方が正しい。足立区教育委員会はＳ－Ｐ表で昔から指導していますので、Ｓ－Ｐ表そのものは足立区のホームページが正しい。文部科学省の方が間違っています。Ｓ－Ｐ表を開発したのは私の恩師ですが、その恩師が文部科学省を指導されたときに、文科省が何を勘違いしたか、統計学的にきちんと数学の理論をわきまえないようなグラフにしてしまっている。たぶん、多少アレンジされたのでしょうね。そのことを私の恩師である開発者自身がこれは間違っているとおっしゃっておりますので、ちょっとまずいのですが。ただ、間違っているとはいえ、このＳ－Ｐ表でもヒントにはなりますのでそういったものを北区独自の学力調査などにうまく応用してやっていかれるといいのではないかなと思います。Ｓ－Ｐ表は特許も何も取っておりません。どのメーカーからもＳ－Ｐ表のソフトが出ていますので、ぜひそういったものも使いながら解析していただけるといいかなと思いました。

（本間教育委員）

学校現場の先生方の意見としては、できれば２学級に３人の担任は欲しいと。体調が悪くても、あるいは子育てで休みたくても、補充が足りないということで、２学級に３担任ぐらいあると本当に助かる、という声があがっています。

そうはいっても実際にはなかなか人材が集まらないという現状があります。今、長谷川委員がおっしゃったようなＡＩですとか、そういうシステムを使うことによって学力の分析やそれに応じた対策が、システム上で作られて、先生が苦労しなくてもある程度パターン化したもので補えるような、そういったかたちの学校支援ということに、東洋大学との連携のシステムがつながっていけたら

いいなというふうに、漠然とですが思いました。

もう１点。指導主事の教科の専門性という点については、長谷川委員が名古屋市を退職なさった頃、東京都も実は指導主事の教科の専門性が大変高かった。でも、東京都の方針で、指導主事は教科の専門性を高めるよりも、それは大学の先生が来て教えればいいことで、むしろ行政の一部としての役割を果たしなさいという方へ、東京都全体が方向転換してしまったという経緯があります。そのあたりは、現場にいたものとして、私も大変残念に思ったものの１人です。

現在の指導主事の先生方を見ていると、その教科の指導も各学校に行ってするとともに、行政のこともやる。このあたりについて、本当に大変な思いをしていることを、現場を離れて教育委員会に入ってなお、一層強く思っているところです。

学級担任や専科の先生方が、教科の準備時間が足りないとおっしゃるのと同じように、指導主事の先生方も各学校に行って指導する準備時間というのがかなり時間外労働でやっていることは事実ですので、今後、人材がいないということもあるかとは思いますが、区雇いで人を補充するという事務的なところでの補助、あるいはいろいろな問題対応について任せられるところがあれば指導主事が本来の各学校での指導ができると思います。そのあたりも、区長が以前からずいぶん気にしてくださっておりますので、そのまま進めていっていただけたらと思っております。

最後にもう１点。北区は今、本当に嬉しい悲鳴で、児童数が非常に増加をしている。せっかく各学校で素晴らしい特別教室などを作っていただいても、そこを普通教室に戻していかざるを得ず、やがてはそれも間に合わずという状態になっていると思います。

だからといって、この先何十年も児童数がずっと増加するわけではなく、やがては減少が来るでしょう。そこで、今ある、かつて学校であったところの跡地の有効活用などについて、期限付きで分校の状態で対応していくことも早急に考えていかないと、仮設校舎の増設のようなことだけではやはり対応が難しいのかなと考えています。

そのあたりについては、また教育委員会の中でも担当の課長などからお話が伺えるかと思います。最近一番気になることとして、学校現場からも教室数の活用の仕方が難しいという声も上がっていますので、あえて話題とさせていただ

きました。

（栗生企画課長）

学校跡地の活用等については、やはり学校跡地ということで、教育と親和性の高い施設でもございます。教育委員会と相談しながらその活用が効果的に進められるよう検討してまいりたいと思います。

５．閉会

（やまだ区長）

本日は教育委員の先生方ならではの視点でご指摘いただけたこと、感謝申し上げます。本日ご指摘いただいた点についてはしっかりと持ち帰らせていただき、検討した中で、よりわかりやすいものを出せていければいいなと思っております。あわせて、様々な施策について、本当にご意見ありがとうございました。

総合教育会議の場はもちろんですが、日常的に意見交換のできるような環境があればいいなと個人的には感じます。教育委員会、教育現場を区長部局でも全力で支えながら、オール北区で子どもたち、また先生たちの現場を助けていきたいなと改めて感じた次第です。

いろいろとご意見をいただきましたことをあらためて感謝申し上げたいと思います。引き続き、これからも取組みについてご指導いただきますことを改めてお願い申し上げましてごあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございました。

（藤野政策経営部長）

以上をもちまして、本日は閉会といたします。ありがとうございました。

（16 時 13 分　閉会）